# 経営者の仕事は「決断」

## ～“親分”の思いは次世代につなげます～

**6月28日、日中経済交流研究会の元会長で株式会社大喜金属製作所代表取締役会長、中辻康氏が大腸がんで死去されました。中辻会長は2003年に中国・蘇州市で「蘇州大喜金属製品有限公司」を独資で開設され、中国進出のパイオニアとして活躍されました。また、当研究会の会長、顧問を長年にわたり務めていただき、日中間の経済交流に多大の尽力をされました。**

**7月例会では開会に先立ち、故人のご冥福を参加者全員でお祈りいたしました。また、8月26日にはチャイナレストラン「香」で、故人と関わりの深かった7人が集い、その在りし日をしのびました。**

中辻会長を偲んで▲

中辻会長は1951年、大阪で中辻家の長男として生まれました。1975年、家業を継承しました。家業は家電部品の製造で、朝から夜遅くまで働いたそうです。働けば何とかなる時代でした。ところが、1985年のプラザ合意で円高が進むと、急速に国内の空洞化が進みました。そんな渦中の1987年に同友会に入会され、グループ討論で「5年後をどうするねん」というテーマを突き付けられたそうです。それまでは「働いたら何とかなる」と思っていた中辻会長が、大きく変化していくきっかけとなるテーマでした。

同友会での学びは「自社を絶対に良くする」ことでした。社員の暮らしを守り、生活を向上させる。「そのために必要な経営者の仕事は決断だ」が、それからの口癖となりました。経済情勢が激流のように変化する中、強み、弱みの現状分析から即実践することに力を注がれました。以来、「(経営は)スピードが大事」というのも、会長の教えの一つに加わりました。

そのためには、何をしなければならないのか。「同友会で、いい友だち、いい先生を見つけることや。仲間づくりや。点から点が線から線になり、面になる。それが人脈だ。引き出しは多ければ多いほど良い。同友会は絶好の場所だ」こんな同友会論を、何度も何度も繰り返す会長でした。

中辻会長を“親分”と慕う同友会の会員は多くいます。そんな人たちに「おれから学んだことがあれば、それは次の世代へ伝えてくれたらいい。おれに返す必要はない」とも。どこまでも謙虚で、懐の深さを仲間に見せる人でした。

2011年7月14日に開いた日中経済交流研究会の例会で、中辻会長が「グローバル化はあなたにとってチャンスか脅威か」のテーマで報告。会長は「グローバル化は避けられない。チャンスはありとあらゆる業種にある。リスクも多くあるが、スピード感を持ってやらないと生き残ることができない」と強調されました。そして、口癖の「経営者は①自分の目で見て、肌で感じること②決断すること③最低限度の失敗を覚悟すること④あきらめないことだ」で締めくくりました。

そんな思いを、私たちが次世代につなげていかなければ。在りし日の中辻会長をしのんで、7人それぞれが得た結論は、「恩送り」で、「遺訓を次世代に」でした。　（文：日中経済交流研究会　大山　武久）

### 中辻会長のご冥福を祈って

◆ 樋爪　伸二

最初は「日本で頑張る。中国には出ない」と言っていた中辻会長。しかし、時代の流れを敏感に感じた中辻さんは、中国進出の件をこと細かく確認するために、たびたび中国に訪問され、私と議論を重ねた。そして、決断すると早かった。先頭に立って中国進出を進められた。見事なものだ。

ウォーキングをして体を鍛えていたし、本もたくさん読まれていた。営業が上手な賢い経営者だった。いろんなことを言いながら、人を魅了する力を持っておられた。そして、同友会で学んだことを活かし実践され、成功された人だ。同友会が本当に好きだったのだと思う。

◆ 落合　良寛

中辻会長との出会いは、同友会に入会して2年目でした。当時、中辻会長が東大阪支部でされた例会報告に刺激を受けたことを、今でも覚えています。「会社は儲けなあかん。赤字を出したらあかん。そして儲ける意味とは…」としきりにおっしゃっていた。今、私が「よい会社、よい経営者、よい経営環境」と説けるのは、中辻会長のおかげです。そして、世間に病気を隠し、息子さんに社長を譲られた姿はまるで戦国武将のようでした。

◆ 北出　善孝

中辻会長との出会いは、学校のPTAでした。ソフトボールを共に楽しみながら、起業したての私に同友会を紹介してくれました。会長が41歳、私が37歳。当時、経営理念がなく、会長の事務所で、激励され、教えられながら作ったことを思い出します。こんな面倒見のいい人はいないと思います。また、ソフトボールや野球をしているときは、負けず嫌いで熱い人でした。

◆ 水本　雅博

かけがえのない“親分”が逝ってしまって…。中辻会長の訃報を聞いた時は、おやじの時と同じくらいにきつくショックでした。僕は32歳で父親を亡くし、会社を継ぎました。当時の僕や家族や社員の出来事や感情について、中辻会長に幾度となく聞かれたことがあります。今思えば、ご自身に万が一のことが起こった時のことを想定され尋ねられたのだと思います。本当に、いろんなことに気を遣う人だったと思います。中国では、「えっ」と思うようなこともされて、いつか“ちょっとした仕返し”をしたろ…いや恩返しをしようと思っていただけに、悔しいです。

◆ 大山　武久

中辻会長を訪問すると「どやねん?」。僕が「…」すると、「何のために同友会で勉強してんねん！ボケ」が常でした。商売上の付き合いもないのに、僕の仕事の実情もご存じのようで、「お前が何度も泣くぐらい話をきいたるから、いつでも来いよ」とおっしゃってくれました。僕が蘇州で一人になった時に電話をすると「今、お客と一緒やねんけど、別れたら電話するからどっかで待ってろ」と言われ、商業街の橋の上で待っていたことを思い出します。その夜のドンチャン騒ぎは忘れられません。

**中辻会長のこだわった言葉**

・凡事徹底　・感謝の気持ちを忘れるな　・颯爽溌剌
・強くなくては生きていけない。優しくなければ生きていく資格はない。

**偲ぶ会参加者（7名）**

日中経済交流研究会 会長　落合　良寛／副会長　水本　雅博／
広報委員長　坂元　正三／広報委員　合田　耕作／
例会副委員長　大山　武久／幹事　北出　善孝／顧問　樋爪　伸二